

# 新入社員はなぜ3年で辞めるのか

真の原因と改善のための具体策（第3回目）



# 仕事内容に対する不満

- ・ 自分がやりたい仕事とは異なる内容だった  
(22.2%、31.8%)
- ・ 仕事がうまくできず、自信を失った  
(20.3%、25.8%)
- ・ ノルマや責任が重すぎた (20.3%、17.9%)

# 退職理由

- ・ **自分がやりたい仕事とは異なる内容  
だった** (22.2%、31.8%)

# 退職理由

- ・ **自分がやりたい仕事とは異なる内容  
だった** (22.2%、31.8%)



## 【対策】

管理職は「自分の仕事の意義と価値を語る！こと」

□ 新人がやりたい仕事に就けるのはほんの一握り

□ 直属上司で新入社員のモチベーションは大きく影響される



管理職は自分の仕事に対して社会的価値と誇りを感じているか、  
語っているか



自分の仕事の意義や価値を理解することで  
「任された仕事」が「やりたい仕事」に変わっていく

## セルフチェック：

あなたが日頃から行っている項目にチェックを入れてください。

- 自分（および職場）のミッションの**社会的価値を理解している**。
- かつ**誇り**を持っている。
- そのことを常に**周囲に語っている**。
- 部下にミッションを与える場合、必ず、「**何のために（目的は何か）**」  
行うかを伝えている。
- そのミッションの出来、不出来が職場全体または後工程に**どのような影響を与えるか**を伝えている。

新人指導にあたっては、以上の5点を忘れずに行うことが必要です。

本人のモチベーションの向上に影響を与えることはもちろんですが、

半年もすれば、「何のためにやるのか」という  
**思考習慣が身につき、**  
**以降は新人自ら主体的に考え行動する**ようになります。

# イソップ寓話「3人のレンガ職人」

時は、中世のヨーロッパ。

ある旅人が、町はずれの道を歩いていると、一人のレンガ職人に出会いました。如何にも重そうで滝のような汗をかいていました。

旅人は彼に尋ねました。

「あなたは何をしているのですか」

レンガ職人は答えました。

「見れば分かるだろう。**親方の命令で**“レンガを積んでいる”んだよ。毎日毎日、暑い日も寒い日もこうやってな。全くやってられないぜ」

旅人は無言でその場を離れました。

しばらく歩き続けると、二人目のレンガ職人に出会いました。

一人目のレンガ職人と同じように、額に滝のような汗をかいていましたが、さほど辛そうには見えませんでした。

旅人は彼に尋ねました。

「あなたは何をしているのですか」

レンガ職人は答えました。

「おれかい？おれは**“壁”**を作っているんだ。**この仕事はきついけど、いい金になる**からな。  
お陰で食いつぱぐれることもないんで、文句なんか言ったらバチが当たるさ」

旅人は励ましの言葉を残してその場を離れました。

またしばらく歩き続けると、三人目のレンガ職人に出会いました。

彼もまた、二人のレンガ職人と同じように、額に滝のような汗をかいていましたが、**活き活きと実に楽しそうにレンガを積んでいました。**

旅人は興味深そうに彼に尋ねました。

「あなたは何をしているのですか」

レンガ職人は答えました。

「おれかい？おれはこのレンガを積んで**“後世歴史に残る大聖堂”**を作っているんだ」

「それは大変ですね」

旅人はいたわりの言葉をかけた。

「とんでもない。この大聖堂が完成したら、多くの人がここに祈りをささげに来るんだぜ。**そのためにも恥ずかしくない仕事をしなくちゃな**」

旅人は微笑みながら大きく頷きその場を離れました。

お気づきのように、この3者の違いは  
「**ミッション（タスク）に対する目的意識の違い**」です。

**目的意識とは、そのミッションは「何のために」やるのか**です。

**一人目のレンガ職人のミッションおよび目的意識：**

ミッション＝レンガを積むこと。 目的意識＝親方に言われたから。

**二人目のレンガ職人のミッションおよび目的意識：**

ミッション＝壁を作ること。 目的意識＝給与の高さ。

**三人目のレンガ職人のミッションおよび目的意識：**

ミッション＝**後世歴史に残る大聖堂**を作ること。

目的意識＝当該事業に参加できる**誇り**。

同じ「レンガを積む」という行為でも目的意識の違いでモチベーションは大きく変わります。

成果物のデキは言うまでもありません。

管理者は、新人にミッションを与える場合には、

「何のために**（目的は何か）**」を必ず語らなければなりません。

続き

10年後の3人

1人目は、相変わらず文句を言いながらレンガを積んでいました

2人目は、金銀は高いけど危険を伴う屋根のうえで仕事をしていました

3人目は、現場監督として多くの職人を育て、出来上がった大聖堂には彼の名が刻まれたそうです

このように、

**管理職は部下の未来を変えてしまう可能性がある**  
ことを自覚することが大切です

それでも

やりたい仕事と違う！

という部下にどう接したらいいのか

次回、それを含めて  
解説いたします